人見を嘉し西史を編纂とし旧記を準縄
とし大社の在石と為ぬる人あらば西家繁
栄の基とすべし予二社の衰を歎て辛苦
すること年三十七年豊八幡社の方を弾して
祖父泉をそなを廃ハ西史の志を歎
て職を辞ずと雖ども二神の為に心を尽す事
黄泉の客となるまで心へりしと

一流徒二十又家

西面山に分る流徒なり古ハ天台修験小
て延暦寺下なりしと云傳へり寛永年中

より寺云に改宗せ二十又坊の内を年号
住坊を法して古跡を遍歴院を建予案
寺に遍歴院ハ元和年中に亡し又殊坊
の院号や住坊ハ又殊号あり一寺と雖共
地社地の西山の麓にありて寺屋敷と云
今ハ畑地となれり延享弘より又殊料二子衆
とあり二十又坊ハ田楽法師なり十六より
三十三を第之衆徒数多あり繁栄田地当
時祈願る三十石又本一合の内よりあり
面に詳なれハ略之二十又坊の内考傳三人